

籍している。そして5年後の平成30年には小学校で426名、中学校では269名となり、5年間で約200名の減少となる。このような状況で推移すると、益々減少していくようになり、遠からず統廃合を町全体で考えなければならぬと思うが、教育長のお考えをお聞かせいただきたい。

答 (堀部教育長)

抱負についてお答えします。私が育成したい子ども像は、「夢・志を持ち、八百津町に誇りを持って、たくましく生き抜いていく子ども」です。

一人一人の子どもは、社会の中で何らかの役割を期待されて生まれてきた、かけがえのない存在です。ですから、自分のためだけでなく、世の中のため、人のために尽くす夢・志を持つ子ども、そしてその夢・志の実現に向けて努力し、たくましく生き抜いていく子どもを育てていかなければならないと思っています。そのような子どもを学校、家庭、地域が手に手を取って連携しながら育成したいと考えています。

ところで、教育委員会は、これまで、八百津町の教育プラン「人道プラン」に基づき、事業を展開してきました。人道プランには3つの柱があります。第一が、一人一人に生きる力の育成を図る学校教育、第二が、モラルや社会性を高め、感性を

養い、人としての生き方の基礎を育む家庭教育、第三が、地域での生き方を学び、貢献する態度を養う地域教育であります。この3つを柱に今後も力を入れていきたいと思っています。学校教育、家庭教育、地域教育でそれぞれ大切にしたいことを次に述べたいと思います。

学校教育で大切にしたいことについてお話をします。現在、少子化や情報化社会の進展、家庭や地域の教育に対する意識や価値観の多様化など、社会状況や教育を取り巻く環境が大きく変化しています。そのため様々な教育の課題が出てきています。子ども達の「学力」、「社会性や規範意識、思いやりの心」、や「体力の向上」などを一層磨かなければならないと思っています。学校におきましては、「確かな学力を身につけること」、「人権意識を含め、豊かな心を育むこと」、「健康と体力を身につけること」の3つに力を入れていきたいと思っています。なお、これらを実践するうえで、こだわることとして5つのことを考えています。

それは、「学校を、磨き、鍛える場である」とらえること、「校風づくりを行うこと」、「人と人の絆をつくる、かかわりの教育を大切にすること」、「当たり前のごとくに力を入れること」、「保育園、小中高といった年齢

を超える(たて)の連携と家庭や地域の(よこ)の連携をすすめること」にこだわっていきたいと思っています。

「確かな学力を身につけること」についてお話をします。現在、少子高齢化や国際化、情報化の一層の進展など時代が大きく変化する中、新たな時代を切り開く創造性豊かな人材がますます不可欠になってきます。「基礎的・基本的な知識・技能」を確実に身につけるだけでなく、思考力・判断力・表現力、自ら学ぶ意欲や態度を育てることに力を入れなければなりません。

自ら課題を見つけて解決していく力や、コミュニケーション能力等を育む教育活動を推進したいと考えます。そのために「日々の授業改善に努めること」、「子どもの実態に応じた少人数指導など個に応じた指導の充実」、「家庭学習の推進」、「読書の指導」などに力を入れたいと考えています。

続いて、「人権意識を含め、豊かな心を育成すること」についてお話をします。八百津町の小中学生の学力状況調査では、「基本的な生活習慣の確立」、「規範意識」、「他者への思いやり」などは、比較的高い割合を示しています。小中学校では、育てたい道徳性を明確にし、道徳の時間を充実させたり、豊かな体験活動を

取り入れていきます。また、あいさつ運動の推進により、思いやりの心を育成しようとして、各学校では努めております。

しかし、「いじめ」が深刻な社会問題になっていくことを重く受け止め、子どもの心に沿った生徒指導のさらなる充実をはかるとともに、人の痛みを理解し、一層思いやりの心をもたせるなどの指導を推進することが大切であると考えます。

先程、徳田議員のご質問にあった「いじめ」は1学期は5件、2学期は5件、計10件であり、「不登校」は1学期7件で現在では8件となっております。深刻な状態となっております。また、来年度は、「いじめ」をテーマとして児童会・生徒会サミットを行いたいと考えています。「いじめ」に対する取組などについて交流しあい、より良い学校、楽しい学校生活を築いていける態度を高めていきたいと思っております。

今後、教育内容で、大事にしていきたいことをお話しします。それは、「ふるさと八百津の教育資源を活用する教育」を一層充実させるということです。八百津町には、豊かな自然があり、良き文化や伝統が残っています。そして、地域の方々が笑顔でありさつを交わす、温かい人々との絆があります。地域に貢献して見える方が大勢みえます。

それらのことが、子ども達に、夢や志を育む土台となると思っています。

現在、町内の小中学校では、地域の自然や歴史、文化・産業などを理解する学習や、地域の人々と連携した多様な地域学習を進めています。授業に地域の方が参加していることもあります。

このことにより、子ども達に、郷土八百津への愛着や誇り、社会性、表現力、問題解決力などが一段と身につくつあります。さらに、ふるさと八百津の教育資源、即ち「ひと、もの、こと」を活用し、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進をしたいと考えます。そのために、ワンコインボランティアを一層進めて行きたいと思えます。同時に八百津高校と小中学校の連携も推進していきます。

ふるさと八百津の教育資源を活用した教育により、「八百津町に住み続け、地域に貢献しようとする」、「将来、八百津町を出て、どこに住もうとも、郷土八百津町のことを決して忘れない。八百津町に育ったことに誇りを持ち、堂々と生きていく」人物を育成できると考えます。この教育が、「人口減少への対応」 「少子化対策」に貢献できればと考えています。次に家庭教育で大切にしたいことをお話しします。家庭は、